

生物資源科

アレルギー症状の治療法

桑原准教授が確立



桑原正人准教授

動物の免疫バランスを調整することでアトピーやアレルギー症状を解消する治療法が注目を集めている。この治療法は、生物資源科学部の桑原正人准教授(獣医学)が十数年前に着想。臨床実験を続けたところ、特にイヌのアトピーに顕著な効果が見られた。将来はヒトのアレルギー症状への応用も期待できるといふ。

アレルギー症状は生体内の免疫反応の一種で、体内に入った異物を攻撃すべき細胞が誤って自身を攻撃する現象だ。異物を攻撃するのはリンパ球内のT細胞。T細胞の活動を活性化させる細胞がヘルパーT (Th)細胞と呼ばれる。Th細胞が体内の病原体などの異物を撃退する際には、

特殊な物質サイトカインを分泌する。分泌されるサイトカインの種類によってTh生体反応は、Th1、Th2、Th3型に分類できるといふ。アトピーやリウマチはTh1型とTh2型のバランスが崩れることによつて発症することほすでに分かっている。

同准教授はTh3を含む3種類のThの生体内バランスを調べ、この3者のバランスを正常に戻すことによつて、これまで完治しないとされてきたアトピー性皮膚炎などの治療に成功した。さらに同准教授は、アレルギー症状がアトピー性皮膚炎、ぜんそく、花粉症という順番で発症するといふ「アレルギー・アトピー・マーチ」説に基づき、3種類のTh生体反応のバランスの変化を調べることで、どのアレルギー症状がいつ発症するかを予測した。その結果、アレルギー症状の早期発見、早期治療が可能になったといふ。

今後もアレルギー疾患以外の病気の応用やヒトへの臨床応用を検討し、研究を続ける。

国際関係 日本語NG!?



食事しながらネイティブの講師と語り合う

国際関係学部3号館2階の食堂の一角に6月2日から「イングリッシュゾーン」が設けられた。日本語は一切ダメ。英語だけで会話するスペースだ。学生の英語によるコミュニケーション能力の向上が狙い。

昼休みには同学部で教えるネイティブスピーカーの講師2人が待機し、学生たちの相手をしている。毎日十数人の学生が訪れるといふ。6月中は同学部留学中の米ストーン・ブルック大の学生らも参加、多いときには

文 理 はにわまつり開催

武人埴輪など約20点展示

文理学部は6月18日から7月28日まで「はにわまつり」造形に込められた想い」を同学部資料館展示ホールで開催している。7月28日まで「はにわまつり」造形に込められた想い」を同学部資料館展示ホールで開催している。展示は約20点を展示。1952年に千葉県山武市の朝日ノ岡古墳から出土した埴輪「双脚武人」は古墳時代(6世紀後半)のもので、当時の武人の様子をよく伝えている。はかまをはき、帽子などをかぶり装飾品を身に着けている姿は身分の高さを表現している。埴輪は完全な形で出土されることはほとんどなく、今回展示された双脚武人は腕や足のつま先などを石こいで補修したもの。円筒埴輪や女性埴輪のほか、展示会に協賛した大塚はにわ店が製造した実物は東京国立博物館で展示されている国宝「挂甲(けいこう)」の武人」のレプリカも出展された。

また展示会に伴う特別講演会が2回にわたる。第1回は同准教授(考古

外国人との交流の場設置

40人もの学生でにぎわった。

ネイティブの講師たちも「英語でのコミュニケーションは確かに難しいが、努力を惜しまず積極的に参加する学生の姿勢に感動する」と手応えを感じている様子だ。

週に2、3回「イングリッシュゾーン」を利用するという勝山健一さん(国際交流1)は「生の英語に触れられるのがいい。みんなで会話をしながら楽しく英語を覚えている」と満足しているようだった。

また展示会に伴う特別講演会が2回にわたる。第1回は同准教授(考古

